

1. 研究目的

新聞紙を主材料としたエシカルファニチャーの提案。ファッション業界で進む「エシカル:地球のため・人のため」という考えを、インテリアに置き換えた。日々大量に印刷される新聞紙を主材料に、廃棄しやすい椅子を作ろうと考えた。

2. 調査内容(事前調査)

古紙再生

- ・ 日本は古紙の回収率が良い。
- ・ 紙に特殊な防水加工が施されていない限り、ほとんどの糊やインキは再生過程で溶ける。

新聞紙

- ・ 原料は古紙7割、残りは新しいパルプである。
- ・ 新聞紙は回収され、再び新聞紙を含む紙製品となる。
- ・ インキは主に植物性のもの。

米

- ・ 炊いた米を煮ると糊になる。



- ・ 糊に酢を混ぜると防腐効果がある。
- ・ 政府や民間が備蓄している米は古くなったものから格安で販売されるなどして、処分される。

新聞紙を主材料にするための実験

- ・ 繊維方向を揃えて貼り合わせると、繊維方向の曲げに対して強くなる。
- ・ 繊維方向をクロスさせて貼り合わせると、どちらの曲げにも強くなる。
- ・ ガイドとなる面に沿わせて貼り合わせ乾燥させると、その形状のまま固まる。
- ・ パイプに貼り付け紙管を作ると、パイプの方向に対して強い強度が得られる。
- ・ パイプの穴と同じ方向に新聞の繊維が向いていた方が良い。

3. コンセプトおよびアイデア展開

「紙に戻る椅子」

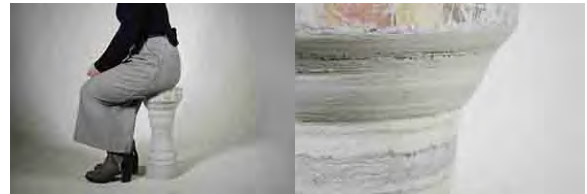
以下の点から、土に分解される紙の性質を活かせる新聞紙は格好の材だと考えた。

- (1)紙の表面にコーティングされていない。
- (2)糊やホチキスによる製本がされていない。

(3)インキは一部、植物油インキが使われている。

- ・ 新聞紙と、ごはんから作ったでんぷんのりを使い、再び古紙として再生可能な椅子を制作。
- ・ パイプに貼り付ける実験で得た紙管は、人が上に立つことができた。このことから、これを応用し、さらに分厚くすることで回転体のツールが作れると考えた。

4. 最終提案(作品)



ごはんの糊を用いて、新聞紙をロール状に貼り合わせたツール。丸ごと燃やす、土に埋めるといった廃棄のほか、古紙として再生することも可能。

5. 今後の発展

頂いたご意見

- ・ 再び新聞紙にする以上の価値のある造形物。
- ・ 工芸品としておもしろい。
- ・ ストーリーがあるプロダクトとして美しい。
- ・ 古紙の利用法に一つの可能性を示している。
- ・ 回収、輸送方法に吟味が必要。
- ・ 古紙再生のサイクルにまとめるのは難しい。
- ・ 古紙特有の質感や表現を魅力的に示すのも良い。

(ご意見を頂いた方:紙の博物館学芸員長、産経新聞制作、JIDA 環境委員会委員長)

制作してわかったこと

乾燥していない層があると、加工の段階で層にズレが生じる。

以上を踏まえ、今回の研究から古紙の利用方法として1つの可能性を示せたことがわかった。しかし、今後は材料の調達や廃棄後の回収について吟味が必要である。また、今回の方法は回転体であれば応用可能なため、その中でより古紙の質感の魅力を引き立たせられるスタイルを追求したいと考えている。

文献

[1]農林水産省, “米をめぐる関係資料”, pp.19-27, (Mar.2000)